



2022年2月1日発行
 公益財団法人とちぎYMCA
 〒320-0041
 宇都宮市松原 2-7-42
 Tel 028-624-2546
 Fax 028-624-2489
 www.tochigiymca.org
 発行人/塩澤 達俊
 編集人/公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News



『いじめや差別と、子育て、教育』

小学校教諭 / リーダーOG / とちぎYMCA メンバー保護者
花田 瞳

表紙の写真から：ピンクシャツを持つさくらんぼ幼稚園園児。いじめや差別がなくなりますように。

『人類同胞に対する最大の罪は、彼らを憎むことではなく、無関心であることだ。』

ジョージ・バーナード・ショー
 (マイ・フェア・レディなどの作者)

「いじめられてもいいから、いじめたり、差別したり、傍観したりするんじゃない。気がついたら、絶対に助けに行きなさい。それでいじめられたら、お母さんが全力で守るから。」

これは、うちの小4、小2の子ども達に言っていることです。私にはちょっとした自慢があります。今までの人生、基本的にいじめられっ子で、中学校、大学、社会人になってもいじめられたという経験があります。しかし、いじめたことも、傍観したこともありません。「あんなことしなければよかった」という心の重みが全くありません。ただ、鈍感なので、気がついていなかったことはあるかもしれませんが……

うちの長男は、いじめに気がつかずに、辛い子に普通に接してしまうある意味残念なタイプです。娘は来る者拒まず、去る者追わずのスタンスで添う子ですが、こちらもいじめとは気がつかない気がします。ただ、私に「その子や相手はどんなことに困っているのか」という質問をされるので、それだけは注意深くリサーチしてきます。

『最大の罪』という重苦しい言葉をバーナード・ショーは遣っていますが、その後の人生における、心の重みなのではないでしょうか。現在、教員という仕事をしていますが、私のいじめられ(加えて、不登校、別室登校)経験を話すと、保護者が喜ぶことこの上ありません。もちろん、他人の不幸は蜜の味という訳ではありません。「それでも(それなりに)自立できるのね。」という安心感なのだと思います。当時は、生きるのも辛かったような気がしますが、こんなに皆さんに喜んでもらえるなんて!良い経験した!と思っています。

大人になって、いじめてきた人、傍観していた人を考えると、「度合いは違っても困っている人」なのだろうな、と思います。「どう接したら良いかわからない」とか、「うらやましい」とか「自分がやられたら立ち直れそうもない」とかそういうことかな、と。

親の立場からすると、いじめられないで欲しいと切に思うし、できればいじめないで欲しいと思うと思います。そして、傍観は仕方ないのではないかと。

私は危ない石橋は叩いて渡りたいタイプですし、職業柄、困っている子も積極的に楽にしてあげたいと思っています。

「いじめは許されない、いじめは絶対にだめ」と長年言われているのに、年々増え続けているのならば、発想を変えてみるのも一案ではないでしょうか。万が一、いじめられても親が、祖父母が全力で守って、そんな自分も肯定してくれるのならば、恐怖でいじめる人は減るのではないのでしょうか。

私が、最初のいじめにあったときに、「親や先生ではない利害関係のない大人に、そばに居て欲しかった」と後から感じました。YMCA でボランティアをするきっかけの一つです。大学生の頃は、本当に自信のない子でしたが、子ども達が全身全霊を込めて頼ってくれることがどんなに力になることでしょうか。とちぎYMCA にも子ども達に全力で付き合ってくれるリーダーがたくさんいることに感謝しています。また、預けてくださる保護者にも、その場を提供していただくスタッフや地域にも感謝しかありません。

息子が、ちょっとはみ出した行動をしたときに(本人は困ってやったようです)、学校の先生が「彼は仕方ない」と注意もしないなんて、差別だ!バカにしている!と憤慨して、学校に訴えに行って下さったご近所さんがいます。そして、子ども達だけで問題を解決しました。なんてありがたいコミュニティーでしょう。

みなさん、どうでしょう。積極的に関わりませんか。いじめや差別を生む心は、積極性に負けるのではないのでしょうか。もし、くじけそうなときは、わたしが、YMCA に集う人達が助けに伺います。

小学校教諭/リーダーOG/メンバー保護者
花田 瞳

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2021年度とちぎYMCA年間聖句

(創世記 第1章 第3節)

「神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。」



認定こども園 さくらんぼ幼稚園

「お正月遊び」

2022年、子ども達の“あけましておめでとうございます!”の元気な挨拶で幼稚園生活の幕が開きました。

雪がちらつく寒い毎日ですが、そんなことはものともせず凧あげやカルタなど元気にお正月遊びを楽しんでいます。コマまわしは年長児が中心になって頑張っていますが、最初は「できない」「むずかしい」「やって」と言っていた子ども達。保育者がやって見せると一生懸命真似をして、少しずつ上手にヒモが巻けるようになってきました。それを見ていた小さい子達も教えてもらいながら挑戦し、異年齢での良いかかわりも見られます。初めて成功した時の嬉しそうな笑顔が宝物ですね。小さな“できた”の成功体験が大きな自信になるように見守っていきたいと思います。

子どもの家だより
～細谷小子どもの家(アドベンチャークラブ)
「新しい一年を迎えて」

新制度がスタートし、年が明け、2022年度の受け入れ準備が始まりましたが、今年度も新型コロナウイルス感染症という目に見えないウイルスとの闘いに明け暮れる一年となりました。子どもたちの生活も今までとは一変し、手洗い・消毒・マスク着用が当たり前の生活スタイルとなり、すっかり定着して毎日を過ごして参りました。様々な制限を受けながらも、子どもたちとともに手を携え、季節のあそびや昔あそびなど、子どもたちの中に潜んでいる力を引き出すことに注力し、信頼関係を築いてきました。アドベンチャークラブは宇都宮で一番最初に設立された放課後児童クラブで、創立55周年になります。



「みつかる。つながる。よくなっていく。」

というYMCAのスローガンは、まさに私たちと子どもたちが長きに渡り繋いできた言葉かもしれません。これからも子どもたちとともに心豊かな活動を続けていきたいと思っています。

主任支援員 平野 悦子



ようとう保育園

「“ようとうっ子”に元気をもらってます!」

ようとう保育園に異動になって、気が付くともう10か月が過ぎました。この短い期間だけでも子どもたちの著しい成長が見られ驚かされています。ハイハイをしていたと思ったら、もう立って歩いたり、単語だけで話していたと思ったら文章になっていたりと、できなかったことが出来るようになっていきます。一応、子育て経験のある私ですが、「この時期にこんなこと出来たっけ?」と、何だか忘れてしまったようで、毎日、感動しています。

一番驚いたことは年長組さんの身体能力の高さです。特に決められた運動をやっているわけではなく、体育の時間があるわけでもありませんが、足が速い子どもが多いことです。毎年、運動会が体育館で行われるため、必然的に床の上を走るようになりますが、裸足でコーナーを回るスピードが速く、手もしっかり振って全力で走っています。毎日の裸足の生活の中で、鬼ごっこや縄跳びなどの遊びを通して自然に培われた賜物ではないかと思えます。また、芸術的センスも抜群です。しばしば、ホームページにアップしていますが、いつもどこかのクラスで新たなユニークな作品が生まれています。

ようとうっ子の一日は、登園から降園まで基本的な一日の流れがあります。その毎日の保育園の生活が子どもに大きな影響を与えていることに改めて気づかされます。毎日、子どもたちと関わっている保育士の先生たちには脱帽です。一日の生活の流れに子どもたちを自然と誘導?し、子どもたちと一緒に走り回り、同時に話をする子どもたちの話を聞き、泣いている子どもと関わり、食事にトイレに、そして保護者の方への報告と毎日がフル回転です。元気じゃあないと務まりません。「子は親の鏡」と言いますが、「子は先生の鏡」とも言えるのではないのでしょうか。元気な子どもたちに元気な先生たち。相乗効果で更に元気に!私元気をもらって、負けずに頑張ります!

事務担当 藤生 容子



特別養護老人ホームマイホームきよはら

「新年」

あけましておめでとうございます。マイホームきよはらでは12月28日に餅つきが行われ、割烹着と三角巾を身にまとい、おもちを丸める作業などを利用者様と一緒にしておこなっていました。また、元日にはおせちやお雑煮が振る舞われ、お酒も提供されました。中々お酒を飲む機会は施設の中で少ないですが、元日やイベントの際には提供されており、ご



利用者さまの皆様喜ばれています。新年会も行われお酒やジュース、お菓子などをつまみながらご利用者様同士で交流をされていました。普段あまりイベントに参加されないようなご利用者さまも「新年会は出てみるか」と意欲的に参加されることがありました。例年では初詣を行います今年も新型コロナウイルスの影響で中止になっています。ご利用者

さまからは「はやく初詣に行けるようになるといいね」などお話しされることがあります。来年こそは外出や初詣に参拝できることを願っています。2022年もマイホームきよはらの皆様の様子をお伝えしたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

宇都宮市青少年活動センター トライ東

「トライ東でもピンクシャツデーを!」

トライ東ではとちぎYMCAが指定管理として運営を委託された時からピンクシャツデーの取り組みをしております。利用者の皆さまには、いじめのない世の中の実現に向けてのメッセージやイラストをピンクシャツやピンクのハートの用紙に記入いただき、館内はたくさんのピンク色の装飾で溢れます。おかげさまで今では利用者の皆さまにも広く知っていただき、2月にはたくさんの方がピンク色のシャツで来館くださいます。今年も皆さまの素敵な笑顔や笑い声と共にピンク色の館内の様子を心より楽しみにしております。※写真は2015年～昨年度までの様子です。



【御礼】Amazon みんなでサンタクロース



ンに参画しています。多くの子どもたちが室内、野外で十分に体を動かしたり、豊かな学びのときを持ったり、仲間とのかけがえのない時間を過ごすことができるよう、引き続きご協力ください。皆様のご理解・ご支援を賜りどうもありがとうございます。

Amazonによる社会貢献活動の一つである「みんなで応援」プログラム『Amazon みんなでサンタクロース』が、昨年11月よりスタートし、170点(約45万円相当分)を超える沢山のプレゼントがYMCAに届きました!頂いたプレゼントは、子どもに関わる全ての拠点に配布され、子どもたちの豊かな体験のために使用します。とちぎYMCAを含む全国23YMCAにおいてこのAmazonのキャンペー



質の高い教育をみんなに。

「ウィンタープログラムを実施しました!」

コロナウイルスの影響で約2年ぶりに行われたウィンタープログラム。とちぎYMCAでは2つのスキーキャンプ、2つのデイスキープログラム、2つの3Daysプログラムを実施しました。

YMCA キャンプには以下、7つの目的が存在しています。

1. 自然生活を楽しみ、自然に適應する能力を身に付ける
2. 良い習慣を経験し、良い習慣を築く
3. 健康のための知識と経験を与え、
4. 生活を豊かにする技術を学び、想像力を育む
5. 良き友人を作る方法を学び、互いの存在と生命 (いのち) を尊重する心を育む
6. 民主的なグループ経験から、社会に関わる責任感を育む
7. 神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う

冬には冬にしかできない体験があります。そして、YMCA のプログラムにはそのプログラムでしか出会えない体験が存在しています。子どもたちの目に見える成長や達成ももちろん大切なことですが、未熟ながらも自立しようとするその時間、体験にこそ参加者の今後の人生の礎は生まれるのではないのでしょうか。スキーキャンプで感じる「あの子みたいにならなりたい」、ワンデイスキーで感じる「とまれるようになった!」という達成感、3Days プログラムで感じる想像力など体験の中でいくつもの心を育てる材料が存在しています。

今後もYMCAでは、この7つの目的を大切にしながら、子どもたちの人生の礎となるプログラムを子どもたちとご家族と、リーダー・スタッフで創ってまいります。



とちぎYMCA大会2021のご案内

とちぎYMCA 大会 2021 は会員総会のニュアンスを持ち、会員はもちろん、地域、社会に対して、

- ・とちぎYMCA 大会のいまを内外に向けて発信する機会
- ・自分たちから活動の成果を報告する機会
- ・たくさんの人たちの反応をかりて、新しい活動を展望する契機とするものです。

当日はようとう保育園やさくらんぼ幼稚園、マイホームきよはら、ユース育成など多くの拠点や事業から報告や未来の展望について皆様にお話します。



【大会当日】

日時：2022年2月11日(金・祝)

1部：10時～11時(60分)

2部：13時～14時(60分)

場所：zoom(オンライン)

以下、QRコードよりお申し込みください。

お申込みは
こちらから→



Learning by doing ー成すことによって学ぶ。ー

スプリングプログラムがはじまります!

とちぎYMCAではこの冬も子どもたちの全人的成長を願い、スプリングプログラムを計画しております。それと同時に、コロナウイルス感染拡大防止についても引き続き対応をしていく所存です。つきましてはプログラムについて以下の通りとさせていただきますので、ご確認の上、お申し込みくださいますようお願いいたします。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

YMCA のキャンプは、「為すことによって学ぶ (Learning by doing)」を理念とした野外教育活動です。その理念は、「どのような教育的な経験も、子ども (対象者) の興味・関心から離れていたら、そ



の経験は子ども (対象者) にとって本質的なものにならない。よって興味と自発性に基づいて子どもを導く」という考え方に導かれたものです。

子どもたちは、友だちと一緒に自然の中でさまざまな活動することによって、人間関係を学び、自然・社会への関心を深めていきます。YMCAでは、子どもたちが安全に、安心して、たくさん自然に触れながら、仲間と一緒に思いっきり遊ぶことを通して、一人ひとりの豊かな成長を育みます。

仲間と喜び・感動する春!

2月15日(火)

13:00～

お申込みスタート

(お申込みはすべてwebからになります。)

～スプリングプログラム予定～

ー 宿泊キャンプ ー

那須シュプールスキーキャンプ (2022/3/19-20)

新1年生チャレンジキャンプ (2022/3/30-31)

ー 日帰りプログラム ー

チョイス①(2022/4/4) チョイス②(2022/4/5)

第2回とちぎYMCAサッカー大会 (2022/3/26)

ー 3 Days プログラム ー

春らんまん3 Days (2022/3/28-30)

第52回全国YMCAリーダー研修会報告 Negative capability × X = Positive Well-being

リーダーたちの「答えなき問いを生きる。」②

第52回全国YMCAリーダー研修会を通して答えなき問いをたくさん手に入れたリーダーたち。ここでは過去を振り返り、今を見つめ、未来を想像しているユースたちの声を全国YMCAリーダー研修会参加報告と共に掲載していきます。

「考えるって楽しい!」そんな感情を抱いたことに私自身が一番驚きました。自分の意見に自信が持てず、話し合うことが苦手だった私が、もっとみんなと話していたと思ったのです。

今回の研修会のテーマであった「negative capability × X = positive well-being」はとても大きな課題で自分の幸せとは何か、と深く考える時間になりました。グループのみんなと話し合い、講師の方々の話を聞き、少しずつ自分の中でxってこういうこと?と考えが浮かんできて、一歩ずつ前に進んでいる感覚がありました。「その人の言葉の裏側にはその人にしかない体験がある」講師でくださった仲井間さんの言葉です。自分のままで良いんだ、私だけが体験した私だけの言葉なんだと自分に自信を持てた気がしました。

世の中には様々な視点があって、その分多様な考えや意見があります。だけどその全てが大切でお互いに気持ちを伝え合えることが幸せだと、そう思うことができました。「考えるって楽しい!」そして自分の考えを他の人と共有できた時はもっと楽しいです。他の人と関わることを怖がらず、もっと楽しんでいきたいと思えます。研修会が始まる際にスタッフの方が「解ではなく過程が大切」と仰っていましたが、今ならその意味が分かる気がします。新しい自分に出会えたこの素敵な旅を自分の体験の一部として今後の生活を送ってまいります。

白鷺大学4年 中川 侑香 (まるリーダー)



全リー研のテーマである「Negative capability × X = Positive Well-being」を聞いて、正直、Xを導ける自身がありませんでした。Negativeはマイナスのイメージがあり、Negativeはあってはならないものだと考えていたからです。

グループミーティングを通じて、まず自分が考えるPositive、Negativeとは何かを考えました。同じ意見もあれば、感じたこともなかったことが他のリーダーにとってはPositive、Negativeに感じることもあると知りました。では、NegativeからPositiveになるにはどうすればよいかを考えました。共通の意見としては、何かきっかけや行動をすることによって、変わることができるというものでした。

しかし、自分たちにとっては、Positiveな考え(幸福)であっても、すべての人、動物がPositive(幸福)に感じているとは限らないということも学びました。もしかしたら、私たちの行動1つで他のこと、人に影響を与えているかもしれないと、すべてのPositive(幸福)は必要ではないと考えました。

報告のとき、同じテーマで考えたにも関わらず、Xが同じというグループはありませんでした。答えは、考えたことすべて正しく、間違えも存在しないと感じた全リー研でした。

白鷺大学4年 大沼 由依 (つえるリーダー)



平和と公正をすべての人に。

国際理解クイズ <チョコレート>

2月は1年で一番チョコレートが売れる月です。チョコレートの原料となるカカオについてクイズで考えてみましょう!

A. チョコレートの歴史の始まりは中米に誕生したマヤ文明のころ。カカオをすりつぶして飲み物として飲むようになりました。それは、いつごろ?

1. BC.(紀元前)2000年ごろ 2. 西暦200年ごろ 3. 西暦1200年ごろ

B. 世界中の人たちに愛されるチョコレート。世界で一番多く食べている国はどこ?

1. スイス 2. アメリカ 3. 日本

C. カカオが多く栽培されているのは、どの地域でしょうか?

1. 温暖な地中海地域 2. 赤道付近の高温多湿な地域 3. 一年中寒い北極地域

D. カカオ豆生産量の多い国、コートジボワールやガーナ(アフリカ西部)には児童労働が156万人もいるそうです。(2020年、シカゴ大学) カカオ栽培地で子どもが労働をするとは、具体的にどんなこと?

1. カカオの実収穫作業 2. 大きなナタで農園の下草を刈る 3. カカオの実などを運ぶ作業

E. ガーナでは日本の国際協力NGOの“ACE”が活動をしているが、どんなことをしているでしょうか?

1. 児童労働や人身売買がないようにチェックしている。 2. 子どもたちが学校に行けるように対策をしている。
3. 子どもたちに危険な作業をさせないように運営委員会やPTAによる学校改善活動をしている。

【答え】 A. 1 B. 1 C. 2 D. 1、2、3 E. 1、2、3

世界中で愛されているチョコレートですが、その原料となるカカオが栽培されている国々で子どもたちが学校に行かずに危険な労働をしていたら、。

カカオ豆生産量 (FAO 2019年)			チョコレート年間消費量* (2020年)	
国名	トン	順位	国名	板チョコ(60g)枚数
コートジボワール	2,180	1	スイス	146枚
ガーナ	812	2	オーストリア	135枚
インドネシア	784	3	ドイツ	131枚
ナイジェリア	350	4	アイルランド	126枚
		31	日本	35枚

【参考】FAO、ACE、*Euro Monitor International



月刊# (ハッシュタグ)



とちぎYMCA総主事
塩澤 達俊

第10回 #なにそれなにそれ

#豆まき#グリンピース#わたしはわたし#手亡豆

豆の気持ちが分かります。

グリンピースは特に子どもに不人気で嫌われていると言ってもよいほどです。シウマイやチキンライスから念入りに取り除かれポツンと残されるときなど、さぞや悲しい気持ちでしょう。

豆はピタゴラスにも嫌われました。古代ギリシャの数学者で哲学者の彼はピタゴラス教団という秘密結社を作りましたが、いちばん有名な戒律は「豆を食べはならない」でした。えらい先生がおっしゃるので弟子たちもそれに従ったといひます。

豆のヒーローといえば節分の大豆かもしれません。鬼を退治する魔力があるとされ毎年スーパーの一番目立つところに鬼のお面とセットで売られたりします。

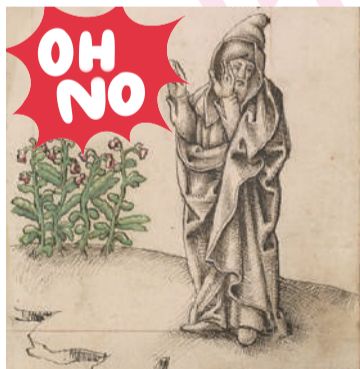
△インドのダール・カレーインドなど南アジアで大人気の豆はダール(オリヤー語: ଚିଲି dālil / ベンガル語: ডাল dāl)です。剥いた小粒のヒラマメなどを割ったもので、この豆の煮込料理もダールと呼ばれます。大変に美味しくたんぱく質や食物繊維も摂れるので毎日食べても飽きないソウル・フード的な支持があります。日本ではダール・カレーと紹介されることが多いです。

このように豆の世界も人生色々で、「捨てる神あれば、拾う神あり」です。ある豆を忌み嫌う人もいれば、大好物な人もいます。

アンパンマンには、白あんぱんマン(白あんぱん=手亡豆)やうぐいすぱんマン(うぐいすぱん=青えんどう)は出てきませんしコンビニでも地味に陳列されがちなパンですが、わたしにとっては美味しい大好きな菓子パンです。

神さまが「わたしの目には、あなたは高価で尊い(旧約聖書イザヤ書)」とおっしゃる通り、ひとやものごとの価値は One man's trash is another man's treasure. 誰かにとってゴミでも誰かにとっては宝物になるものです。

ピンクシャツデーにちなんで言えば、神さまが愛してくださっているのだから、みんなに好かれる必要なんでないの、わたしはわたしでイんじゃないか、と思います。



△豆を避けるピタゴラス



△インドのダールカレー

information とちぎYMCAの予定

2022年2月の予定

- 2月11日 とちぎYMCA大会2021(オンライン)
- 2月15日 とちぎYMCA スプリングプログラム申込
- 2月23日 ピンクシャツデー

2022年3月の予定

- 3月15日 さくらんぼ幼稚園 卒園式
- 3月19日-20日 那須シュプールスキーキャンプ
- 3月26日 第2回とちぎYMCA サッカー大会
- 3月28日-30日 春らんまん3Days
- 3月30日-31日 新1年生チャレンジキャンプ

2022年4月の予定

- 4月4日 チョイス①【アクティブ編】
- 4月5日 チョイス②【乗り物編】
- 4月9日(予定) さくらんぼ幼稚園 入園式

YMCA ピンクシャツデー 2022年2月23日(水)

新型コロナウイルス感染症への恐れは、わたしたちの生活に不安をもたらし、心ない偏見や差別を生み出しています。

このようなときだからこそ、いじめの構造に目を向け、一人ひとりが「傍観者にならない」、「自分ではない誰かのために」行動しませんか。

YMCAはそのようなポジティブで前向きな「よくなる」の連鎖を大切にします。



とちぎYMCAの日常をご覧ください。

instagramもはじめました!
tochigi_ymca

